



KOFU21

Chartered 1990

甲府21ワイズメンズクラブ

THE SERVICE CLUB OF Y.M.C.A. THE Y'S MEN'S CLUB OF KOFU 21

2020年6月2日(火) 発刊

〒400-0032 山梨県甲府市中央3丁目10-7
山梨YMCAGローバルコミュニティセンター
☎055-235-8543 fax055-235-8553
Mail kofu21@googlegroups.com

国際会長主題: Building today for a better tomorrow
アジア太平洋地域会長主題: アクション! Action!
東日本区理事主題: 勇気ある変革、愛ある行動
あずさ部長主題: あなたの入会時のときめきと多くの経験をワイズのために!
甲府21クラブ会長主題: 『対話と実行』

Jennifer Jones(豪州)
田中 博之(東京多摩みなみ)
山田 敏明(十勝クラブ)
赤羽 美栄子(松本クラブ)
荻野 清

甲府21ワイズメンズクラブ
2020年6月会報
強調月間 評価

〈今月の聖句〉 「人はパンだけで生きるものではない。
神の口から出る一つ一つの言葉で生きる。」

マタイによる福音書 4章4節

野々垣 健五 選

会長挨拶

6月 会長挨拶

甲府21ワイズメンズクラブ会長 荻野 清

政府より、5月14日に39道府県の緊急事態宣言を解除すると発表がありました。また、同月25日には、全国の緊急事態宣言が全面解除となりました。しかし、第2波・第3波が予想され、まだまだ予断を許さない状況で、ドイツなどの例を見る中で、感染拡大への注意が必要となります。このコロナ禍を乗り越えるには、さらに時間と忍耐が必要となるところです。

さて、本年度も残すところ一か月となりました。2月中旬からワイズの活動がストップし、年度主題である「対話と実行」は、LINEとかZoomの話し合い(打合せ会)が試されているところでもあります。新しい生活様式への変化に対する迅速対応が、求められていると感じられてきました。

5月に入り、落成された山梨YMCAの新館(山梨YMCAグローバルコミュニティセンター)へ行ってきました。第一印象は、ウッド調でゆったりと落ち着いた空間を感じました。また、一階フロアは「光冷暖システム(F-CON)」という人間に優しい空調システムで一年中快適に過ごせ、なおかつ電気代が節約できるという優れものを導入してありました。

山梨YMCAの老人介護部門では、これまで通所介護(デイサービス)を他場所にて運営しておりました(今後も続行)が、新館建設に伴い、新規に「オリーブの木」の名称でデイサービスが運営されることとなり、プログラム面での大きな核の一つとなると期待されます。また、このことは、既存YMCAプログラムにみる若年層

とのコミュニケーションの基軸となり、グローバルコミュニティセンターとしての役割がさらに発展的に進むと推測します。ここで6月のリフレッシュのための写真はいかがでしょう。



鎌倉 明月院(あじさい寺)

≪6月 第1例会プログラム≫

日時 2020年6月2日(火) 19:00~

会場 山梨YMCAグローバルコミュニティセンター
(3階多目的ホール)

- | | |
|-------------------------|--------------|
| 司会 興水順雄メン | 奏楽 荻野 優子メネット |
| ①開会点鐘 | 荻野 清会長 |
| ②ワイズソング、ワイズの信条 | |
| ③今月の聖句、一言 | 野々垣健五メン |
| ④会員スピーチ | 飯田 剛メン |
| ⑤会長挨拶 | 荻野 清会長 |
| ⑥入会式 (司会:EMC委員長 米長晴信メン) | |
| ・入会式プログラム | |
| ・新会員 山口 了さん 佐藤 哲郎さん | |
| ⑦ハッピーバースデー | |
| ⑧次期会長方針検討 | 興水次期会長 |
| ⑨諸報告 | |
| ⑩YMCAの歌 | |
| ⑪閉会点鐘 | 荻野 清会長 |

*ワイズディナーは中止(弁当を持帰る形とします)。
*例会担当は執行部役員とします。

新会館立上げによせて

将来計画検討委員長 野々垣 健五
2014年から準備してきた「新会館」。45年間お世話になった連雀通りの200坪の敷地から穴山通りに移り、所有土地は620坪となりました。会館としても全くFreshなものとなり、全国のYMCAの中で全く類のない施設として「For All」を旗印に立ち上がりました。500人に迫る方々の篤い寄附もあり、総事業費も640,000千円となりました。そして、それを123,000千円の借入金で賄おうとしています。山梨においては、ワイズメンズ諸先輩の祈りと寄附金とボランティア活動により、YMCA運動とワイズ運動の結びつきの良さが諸々、見受けられます。大きな寄附金をいただきつつあり、37,000千円を超しております。不思議な神様のご加護と思わざるを得ません。あと10,000千円ご寄附いただければ何とかなる迄、追い込むことが出来ました。篤く、篤く感謝申し上げます。露木総主事以下、多くのスタッフの頑張り期待していきたいと思っております。甲府21ワイズも、楽しく、新たなグローバルコミュニティセンターに立ち寄りましょう!!

感謝して!!

6月
HAPPY BIRTHDAY!

メン 野々垣健五	6月 5日	メネット 赤根 教子	6月 9日
寺田 喜長	13日	廣瀬まさみ	11日
奈良田和也	16日	古屋 律子	26日
野々垣和宏	21日		

新型コロナウイルス感染症がもたらした課題

甲府21ワイズメンズクラブ 小野 興子

この度の新型感染症パンデミックはピーク時を過ぎたとは言え、予断を許さぬ状況である。クラスター発生も危惧される中、世界中が揺れ動き、様々な課題をなげかけている。その中でも直接大打撃を受けたのは医療現場であったと思う。医師や看護師等の数・専門性ばかりではなく、人工呼吸器の不足が生じた。呼吸器が必要となった場合、どのようなルールで誰に優先的に使うかという課題と同時に、回復の可能性の低い場合には使わないこともあり得るというルール(トリアージ)作りが始まっていると言う。すなわち生命倫理の課題にも発展している。

一方この生命倫理的課題は、これまでも終末期医療の課題でもあり、今、日本における高齢社会の課題とも重なっている。哲学者 森岡 正博氏はこのパンデミックを受けて、「終末期医療を話し合う時」と述べている。(朝日新聞5月14日、論考欄)

私も終末期医療に携わった経験から、高齢者やがん終末期患者さんのケアのあり方を考えてきた。何時でも誰でも高度医療が受けられる日本医療体制の中で、高齢者に対する高度医療の必要性と無効性が論じられている。しかし、それを選択することは中々困難な課題でもある。誰でも急変すれば、救急車を呼び助けを求める。家族もそう願うのが当然である。普段から高齢期をどう過ごしたいかを家族で話し合い、心の準備があれば救急車を呼ぶ必要性を考えることもできる。

また、山梨YMCA デイサービスセンター「ぶどうの木」や「オリーブの木」を開設した意図は人生の最終段階を病んでも、超高齢になっても普通の生活を続け、寝込むことなく穏やかに過ごしてほしいとの願いからであった。「ぶどうの木」開設から、この7月で7周年を迎えるが、特殊な疾患の方以外は、誰も救急車を呼ぶこともなく、呼吸器につながることもなく、最期まで家で穏やかに過ごしてくださる方ばかりである。穏やかで楽しく過ごすことで、自然な「生」を全うできるのであろう。この度の緊急事態のトリアージが高齢者切捨てのものであってはならないことも当然である。



小野興子メンは、この4月より学校法人山梨英和学院の理事長に就任されました。おめでとうございます。

項目	ニコニコボックス	バザー収益金	クリスマスオークション	切手
目標値	250,000	50,000	50,000円	5,000g
5月の合計	0	0	0	
5月末迄累計	218,958	136,370	66,000	0g
達成率	87.5%	272.7%	132%	0%

山梨YMCA 新会館探訪

2020年5月1日、甲府市中央3-10-7に山梨YMCA新会館がオープン致しました。新型コロナの感染予防を鑑みオープニングセレモニーは収束後になりそうです。そこで山梨YMCAの田草川啓さん、露木魁人さんのお二人にご協力を得て、誌上にてご紹介させていただきます。有り難うございました。





国際交流スペース「アーク」



子育て支援センターつぼみ



プライムタイム



すみれ、たんぽぽ、すずらん 小さな3つのお花が育ちます



多機能ホール「ベテル」



旧会館は取り壊し工事が始まりました

ペンリレー ～ペルー～

甲府21ワイズメンズクラブ 小澤 公紀

「三蜜回避」「自粛」等で明け暮れている毎日、いろいろ思いはありますが今回のペンリレーでは、感動した思い出話を・・・

ちょっと古い話ですが一昨年の二月末に八日間ほど旅行会社のツアーで念願の「ペルー」に行ってきました。一番の目的は、BC7500年からのアンデス文明の流れをくむインカ帝国の首都「クスコ」及び謎の空中都市「マチュピチュ」と古代「ナスカの地上絵」という3つの世界遺産の見学です。

なんといっても日本の裏側、片道約20時間以上の(トランジットの待時間含)フライトで夏の盛りである初めての南アメリカ大陸に到着しました。

夫々見どころ満載で感動の連続でしたが、特に「マチュピチュ」の壮大な偉容と何故、何の為になどのミステリアスな思いが現地で膨らみ、僅か500年程前(日本の戦国時代の初期)のこの地に存在した権力者達の栄華と滅亡を思わずにいられませんでした。言葉でその感激を説明できません。是非機会を作って現地へ行って思いを共有しましょう!

しかしこの旅では世界遺産の見学も良かったのですが、今も私の心に残っているのはペルーの人たち、特に高地(3000m～3500m)に住む普通の農家の人々の気質に少しだけ触れたことが鮮明に思い出されます。それは夫々の観光地などでお土産を売る地元の真っ黒に日焼けしたお母さん達です。

他の世界の観光地では、目的地等にバス等で到着すると「1000円! 1000円!」などと大声で叫びながら粗悪品を売る輩が群がってくるのがパターンですが、ここでは民族衣装(と言っても普段着)を纏った人たちがニコニコ笑いながら黙って自分の手作りと思われる土産品を売っており、価格も驚くほど廉価なのです。ガイドに聞いてみると「普段はポテトなどの農業で自給自足に近い生活をしており、空いた時間に昔から伝わる手編みなどで飾り物を作り置きし、こうして売っている」との事、とても丁寧な作りのものが多く、楽しみの一つである値切り交渉もしないままいくつか購入したものです。例えばアルパカの毛で編んだ糸で作った飾り物がついたキーホルダーが一つ100円もしないほどです。今も私の車に吊るしています。

おそらく、先進国と言われる日本に住む私達とは全く違う人生の価値観を持っている人達で、果たしてどちらの方が豊かな人生なのか等との思いを感じずにはいられませんでした。

又、陽気な南米人の心のこもった宿泊対応なども国柄を感じさせる大変記憶に残る旅行でした。但し、トイレの対応には十分な心構えが必要ですが!

と、下の話になったところでペンを置きます。



山梨YMCA便り

子どもたちが帰ってきた!

山梨YMCA 総主事 露木淳司

久々に子どもたちの声が帰ってきました。緊急事態宣言が解除となり、学童保育と発達支援の子供たちが学校再開になったのを受けて、まだ7割ぐらいの利用ですが、戻ってきています。「すげえ」「めっちゃきれい」「エレベーターがあるよ」などとはしゃぎながら、館内をくまなく探検しています。今までいた子たちに交じって、初めて来た1年生も戸惑いながら黄色い帽子をかぶって、大き過ぎるランドセルをしょってやってきました。やはりYMCAには子どもが似合います。その声を聞くと何ともほっこりとした気分になります。今までになく一人一人がいとおしく、ありがたい存在に感じられます。

一方で1階の西側半分にあるデイサービスセンター「オリーブの木」は、オープンはしたものの、まだ利用がなく閑散としています。すでに準備万端、いつでもお風呂に入れる状態ですが、このコロナ騒ぎで、新規利用者の気配は遠のいてしまいました。理想に掲げた「お年寄りと子供が家族のように一緒にくつろぐことができるYMCA」の実現が待ち望まれます。

ととても快適な、便利できれいになった新しいYMCAを、早くいっぱいになりたいと、はやる気持ちを抑えつつ、今私たちがやるべきことを模索する毎日が続きます。コロナウイルスはそう簡単にはなくならないでしょう。ウィズ・コロナ。いかにコロナ渦の中で生き抜くか。コロナ渦の中にいる人々を勇気づけられるか。YMCAでなければできないことがきっとあるはず。それが何なのか、まだはっきりとは見えてきませんが、まずは地域の人々とつながろうと思います。足を運び、皆様の声を聴き、こちらからできることを発信しなければなりません。YMCAの行動指針LOVE(Life support、Outreach、Volunteer、Education)の初心に立ち返って、まずはOutreach、地域に根差すところから始めます。

最後に、もう一度、募金のお願いをさせていただきます。ご他間に漏れず、山梨YMCAもコロナの影響下による減収は避けられず、建築資金にも少なからず影響を受け、多額の借入金を起こしております。何卒、何卒、この神の家の建設に対しまして、皆様から愛のお志しをお寄せいただきますよう切にお願い申し上げます。



新会館建築募金にご協力を